

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 12 月 6 日 (2007.12.6)

【公開番号】特開 2002-206914 (P2002-206914A)
 【公開日】平成 14 年 7 月 26 日 (2002.7.26)
 【出願番号】特願 2001-3635 (P2001-3635)
 【国際特許分類】

G 0 1 B 9/02 (2006.01)

【F I】

G 0 1 B 9/02

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 10 月 22 日 (2007.10.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 1】

可干渉距離の短い低可干渉性の光源を備えた光源部 10 から射出された発散光線束は、ハーフプリズム 19 によって方向を転換され、コリメータレンズ 15 によって平行光線束とされ、この後、光束分割合成手段 1 に入射される。この光束分割合成手段 1 は平板状の単独の部材よりなり、後述するようにコリメート光を参照光 4 a (4 a C および 4 a C C を 4 a と総称する) および測定光 5 a (5 a C および 5 a C C を 5 a と総称する) に分割するとともに、参照光 4 b (4 b C または 4 b C C のうち干渉縞生成に関わる光束を 4 b と称する) と測定光 5 b (5 b C または 5 b C C のうち干渉縞生成に関わる光束を 5 b と称する) とを合成する機能を有する。ここで参照光 4 b は、参照光 4 a が参照面 16 a で反射されて戻ってきた光束であり、測定光 5 b は、測定光 5 a が前記被検体および前記平面反射ミラーを経由して前記光源からの光軸に略一致した光軸で逆送してきた光束である。なお、この光束分割合成手段 1 は、図 1 に示されるような単独の部材からなるものばかりでなく、複数の平板状の部材を、参照光 4 a と測定光 5 a を分割する面および参照光 4 b と測定光 5 b を合成する面が各々面一となるように連結あるいは結合させて、一部材となしたものであっても良い。